レッスンSPA45

テーマ：素質的可能性のサイクル(Cycles of Capabilities)

SPA45/KE8MA18/08

私の姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供たち。

私たちは常に主、絶対、主の聖性によって抱かれています。

私たちには「人間のイデア」を通じて現れとしての「生」があり、「魂のセルフ・エピグノシス」としてのこの現れは「創造の諸世界」、「生それ自体」 のなかでセルフ、自己 を現しています。「人間のイデア」を通じて、この現れはまた自己実現…以前のレッスンでそれを「セルフ・エピグノシス」と呼びましたが…のための能力を有しています。

さて、この能力、つまり質は「人間のイデア」を通じて「生」の現れに与えられた素質的可能性のサイクルのなかにあります。ですから、人間は現れの世界において、まず素質的可能性のサイクルのなかにいます。

問題はそれらの世界、つまり「存在」、「生それ自体」の世界のなかで素質的可能性のサイクルの必要性があるかどうか、ということです。答えはノーです。なぜなら、（そこでは）人間は完全に「生それ自体」の特質を現わしているからです。

しかし、現れとしての人間は「神の黙想」の結果であり、この 「神の黙想」の結果として創造界のなかで私たちには現れがあります。しかし、その理由は何でしょうか？その理由は、「絶対生」の多様性（複数性）のなかで「生」、「モナド」としてのそれらのセルフ、自己が 自己実現に到達することです。それ故に人間には素質的可能性のサイクルが与えられているのです。

この素質的可能性のサイクルにおける最初の素質的可能性は、「生」が存在の諸世界のなかでその特質を完全に現すことであり、二番目の素質的可能性は「生」がそれ自身から微細なスパークを現わすことであり、その微細なスパークは限界ある現れのなかに入ります。それはもう一つの素質的可能性であり、それは現れとして「生」の素質的可能性のサイクルによって与えられたものです。そして今やその微細なスパークは、実存の世界において現在のパーソナリティーとしてセルフ、自己を現わしています。そして現在のパーソナリティーとして、私たちにはもう一つの素質的可能性のサイクルがあります。

ですから、「生それ自体」として人間に与えられる素質的可能性の大きなサイクルがあり、この大きなサイクルのなかに現在のパーソナリティーに与えられる小さな素質的可能性のサイクルがあります。素質的可能性の二つのサイクルがあります。「生」の完全な現れのなかで、「生」はこのサイクルによって与えられた可能性に完全に従っています。

しかし、今現在のパーソナリティーについてはどうでしょうか？現在のパーソナリティーは無知のなかに囲われた結果、この素質的可能性のサイクルによって与えられた可能性を現わしていません；反対に、現在のパーソナリティーは蓋然的可能性のサイクルという非常に小さな別のサイクルの下にいます。そのサイクルの数はどのぐらいあるのでしょうか？蓋然的可能性のサイクルは無数にあり、それは現在のパーソナリティーの状況により、また現在のパーソナリティーが現わしている気づきのレベルにもよります。

ですから、素質的可能性の二つのサイクルがあり、現在のパーソナリティーである私たちにはさらに無数の蓋然的可能性のサイクルがあります。以前のレッスンで述べましたが、現在のパーソナリティーが現している気づきのレベルは様々です。まず初めに、本能的意識のセルフ・エピグノシスと呼ばれるレベルがあり、それが最初のレベルであり、そこには無数の亜レベルがあります。その数はどのぐらいあるのでしょうか？宇宙に存在する人間の数だけの亜レベルがあります。

それぞれのレベルにおいて、現在のパーソナリティーは特定の蓋然的可能性のレベルを経験し、あるいは経験しつつあり、無数の蓋然的可能性のレベルがあります。しかし今、亜レベルではなく本能的意識のセルフ・エピグノシスのレベルとしてのこのレベルに、素質的可能性のサイクルによって全ての可能性が与えられています。このサイクルが完全に現わされるためには、それはそれを達成した各パーソナリティーがA点からB点までの特定の距離をカバーしたことを意味します。言い換えれば、距離は全ての人にとって同じです。ある人は他の人と比べて同じ距離を短い時間でカバーするかもしれませんが、その距離はこの創造界においては誰にとっても同じです。

Page2

あなたが一つのレベルの距離をカバーするやいなや、自動的にあなたは別の素質的可能性のサイクルに入ります。そして、素質的可能性の次のサイクルは潜在意識的意識・意識的意識のセルフ・エピグノシスです。今あなた方はこの潜在意識的意識・意識的意識のセルフ・エピグノシスのサイクルを経験しています。そして勿論、このサイクルのなかであなた方は無数の蓋然的可能性のサイクルを経験しています。

あなたは一つの蓋然的可能性のサイクルをスタートしてそれが終了すると、おそらく次の瞬間には次の蓋然的可能性のサイクルをスタートさせます。状況は絶えず変化しており、あなたがその距離に到達すると、言い換えればあなたがそのサイクルをマスターすると、あなたが次の素質的可能性のサイクルに入ります。そのようになっています。そして次のレベルの素質的可能性のサイクルは意識的意識のセルフ・エピグノシスのサイクルです。そこにもまた無数の蓋然的可能性のサイクルがあります。素質的可能性の次のレベルは超意識的意識のセルフ・エピグノシスのサイクルであり、そこにもまた無数の蓋然的可能性のサイクルがあります。ですから現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルのなかには小さなサイクルがいくつあるでしょうか？四つの小さなサイクルがあります。

そして今、潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスのサイクルを経験している現在のパーソナリティーはどこにいるでしょうか？それは部屋のなかにいます。しかし、最初のサイクル、本能的意識のセルフ・エピグノシスのサイクルはどうなったんでしょうか？誰かが自分自身についてのワークをスタートするためには、その最初のレベルの素質的可能性のレベルをすでに終わっていなければなりません。さもなければ、現在のパーソナリティーはサイコノエティカルな成長についてなど考え始めなかったことでしょう。ですから、気づきの上昇に向けて努力しようとする人は、素質的可能性の二番目のレベルを経験しています。

部屋にいる間に現在のパーソナリティーは様々なモニュメント、様々なピラミッドを築くと言いましたが、その理由は素質的可能性の二番目のサイクルを完了させるための助けを得るためです。このサイクルが完了するのはこの部屋のなかにいる時です。

部屋のなかの小さな四面ピラミッドについて述べましたが、このピラミッドをマスターするということは、この特定のレベルの素質的可能性のサイクルを完了させることを意味します。

しかし、三面ピラミッドについてはどうでしょうか、またそれは実際何を意味しているのでしょうか？以前のレッスンで三面ピラミッドは「絶対英知・絶対善・絶対パワー」という「絶対生」の三つの主な特質を示している、と述べました。

しかし、部屋にいる間に人がこれらの特質を完全に表現することができるのでしょうか？できません。実際、この三面ピラミッドはこの特定のレベルの素質的可能性のサイクルに成功するための助けとして与えられたものです。言い換えれば、（素質的可能性のサイクルの次のレベルに入ることができるよう）部屋にいる間に現在のパーソナリティーが「生」をどれだけ現すことができるか、ということを意味します。それによって、現在のパーソナリティーは部屋を後にして次のサイクルに入り、大きな四面ピラミッドのなかに立っている自分自身を見いだすようになります。そのような意味があります。

さて、四面ピラミッド、そして三面ピラミッド；五面ピラミッドは三面ピラミッドと同じ高さであり、部屋のなかの四面ピラミッドはそれがどうあれ、このレベルのサイクルが完了するとき同時に現在のパーソナリティーが五つの超感覚をどれほど表現しているか、ということを決めます。現在のパーソナリティーは五つの超感覚の使用を通じて自己、セルフを完全に表現することを期待されているわけではありません。どれぐらいでしょうか？どれぐらいか、それは三面ピラミッドによって示されます；言い換えれば、このレベルの素質的可能性のサイクルです。前に、部屋のなかの四面ピラミッドの頂上は特定されていないと述べました。なぜなら、四面ピラミッドの頂上は完成していないからです。四面ピラミッドが完成するときの頂上、それはこの素質的可能性のサイクル次第です。それが現在のパーソナリティーを自動的に四面ピラミッドの頂上に置くのです。

Page3

言い換えれば、もっと詳しく言えば、このピラミッドをマスターすること、それはこの部屋のなかのピラミッドの頂上です。このことは小さなピラミッドのみならず地上にある大きなピラミッドについても言えます。大きな四面ピラミッドのなかであなた方は意識的に、そして後には超意識的に素質的可能性の二つのサイクルを経なければなりません；一つは意識的意識のセルフ・エピグノシスのサイクル、もう一つは超意識的意識のセルフ・エピグノシスです。しかし、ここに「しかし」が入りますが、もう一つのサイクルがあります。なぜなら、大きな四面ピラミッドのなかにいる間に現在のパーソナリティーは五つの超感覚ではなく同調を通じてセルフ、自己を現すという能力に到達するからです。それは実際、素質的可能性のもう一つのサイクルです。ですから、二つと言いましたが、実際には三つのサイクルがあります。しかし、現在のパーソナリティーが素質的可能性のそのサイクルのなかに留まるかどうか？、答えはノーです。それゆえに初めにその三つ目のサイクルについては述べなかったのです。

ですから、実際には三つありますが、現在のパーソナリティーは二つのサイクルにフォーカスします。その理由は三つ目のサイクルの始まりと完了、それは一瞬のうちに始まって完了し、そこには時間はありません。そのパーソナリティーは一瞬のうちにそのサイクルをスタートし完了します。しかし、繰り返しますが、その現在のパーソナリティーが同調を通じて自己を表現し続けるかどうか？、答えはノーです；そのパーソナリティーは前のサイクルの使用に戻り、さらにもう一つ前のサイクルの使用にさえ戻ります。ですから、ワークは大きな四面ピラミッドのなかにおける二つの素質的可能性のサイクルのなかでのみ行われます。大きな四面ピラミッドに関するさらなる詳細は将来お話しします。今は現在のパーソナリティーの部屋のなかで行われるワークに集中します。

現在のパーソナリティーは部屋のなかにいて、以前のレッスンで述べたように部屋のなかには霧がかかっています。霧がかかっている状態です。現在のパーソナリティーは最初は自分の周囲で生じていることを五感の使用によって見て、認識することができません。しかし、徐々にゆっくりと現在のパーソナリティーは部屋の四つの壁から輝き出ている四つの異なった光を見ることができるようになります。正面からは純白の光、右の壁からは赤の輝き、後ろの壁からは水色の輝き、左からはウルトラ・バイオレットの光という四つの異なった輝きです。

部屋の中であなたはとても快適に感じており、水のエレメントに包まれているのを感じます。なぜなら、実際、部屋のなかの輝きは水色だからです。しかし、それは壁の背後の水のエレメントを示す水色とは異なっています。（＊部屋のなかの）水色はもっと白っぽく、霧のような輝きですが、その輝きが現在のパーソナリティーを生き生きとさせているのです。それはあなたが五つの超感覚を使用することによってのみ理解できる輝きです。それゆえに、最初あなた方は五感を通じてこの霧がかかったような環境のなかに入り込むことができないのです。なぜなら、以前に述べたようにサイコノエティカル体の感覚とは超感覚と呼ばれるものだからです。

さて、次に行うことはあなた方がすでに築いた最初のピラミッド,小さな四面ピラミッドに実体を与えることです。このピラミッドにあなたが実体を与えるやいなや、部屋の壁の輝き、同時に霧がかかったような環境から出ます。

Page4

今、あなたは四面ピラミッドのなかにいて各サイドから同じような輝きが放たれています。正面からは純白の光が輝いていますが、その白が前よりもっとクリアーです。同じように赤、水色、ウルトラバイオレットの光ももっとクリアーに、そしてもっと輝きが増しています。空間には、四面ピラミッドのなかには、言い換えれば四面ピラミッドの空間は今やこれら四つの光によって完全に占められています。そして今あなたがこの環境から感じるものは前とは完全に異なっています。あなたはこれらの輝きの影響、これらの環境からの影響に対して自分を完全に開き、オープンにします。その影響を感じることができるということ、それが現在のパーソナリティーを助けてくれるのです。まず、違いを感じます…部屋の中の感じと、ピラミッドのなかの感じの違いです。次にすることは、部屋に戻り、しばらくの間自分をテストし、後にまた四面ピラミッドに実体を与えます。

ですから、するべきワークがたくさんあります。実際に行うワークです。そしてこのワークは現在のパーソナリティーを助け、少しずつより高いセルフを現すことができるようになります。どれぐらい？それは現在のパーソナリティーがどれほど一生懸命にワークを行うかによります。何故？疑問は何故、そしていかにしてこれら全てのピラミッドが助けてくれるのか？、ということです。その理由はシンプルです。この創造界には不動の法則があり、物質の原子のなかには調和があります。何が調和を保っているのでしょうか？創造界の不動の法則です。もし誰かがこの調和の邪魔をすると、自動的に、調和を保つのと同じだけのパワーが外側に放出され、原子爆発となります。

さて今あなた方がすることは、徐々に少しずつそのハーモニー、（調和を保っているものを誤用することなく）調和に同調するように努力することです。過去の多くのシステム、そして現在でもいくつかのシステムでは残念なことに、唯一パワーと能力を現わすためにこれらの法則を使っています；しかし私たちのなすべき仕事はより高いセルフ、自己を現わし、より高いレベルの気づきを現わすことです。これらのピラミッド、そしてあなた方がこれから行うワークは一般に、創造の不動の法則との同調へとあなた方を引き寄せます。もしあなた方が創造の法則と同調するなら、それはあなた方が「生」の特質に向かってより近づいていくことを意味します。

ですから、様々な素質的可能性のサイクルがあります。ます最初に、「人間のイデア」を通じて「生」、言い換えれば「魂のセルフ・エピグノシス」に与えられた一つの大きなサイクルがあります。この大きなサイクルのなかにもう一つのサイクルがあり、それは「魂のセルフ・エピグノシス」から現在のパーソナリティーに与えられたものです。そして、現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルの中に他のより小さな素質的可能性のサイクル（＊複数）があります。私たちは４＋１のサイクルについて話してきました。なぜなら、現在のパーソナリティーとして人は素質的可能性の四つめのサイクル（それは超意識の完成）から与えられるものを現わすのみならず、現在のパーソナリティーはスーパーサブスタンスと呼ばれるマインドのバイブレーションを使うことによって自己、セルフを現わすステート（＊意識状態、意識のレベル）もあるからです。それはノエティカルなバイブレーションのより高い世界です。そして現在のパーソナリティーはその時初めて、守護と表現のシンボルとして、そしてお互いのコミュニケーションの手段として六芒星を使うことができるのです。私たちが同調(attunement)という時、それはあなた方がコミュニケーションをする時のこのシンボル、この六芒星の使用を通じてのみ行われます。

EREVNA SPA/45KE8/M/18/KE8

SPA45/END5